

2023 年度実施 研究者交流支援制度実施報告書

招聘研究者：Dr. ピアース・グリーンバーグ (Pierce Greenberg)

所属機関：Clemson University

招聘期間：2023 年 10 月 7 日～17 日 特別講義：2023 年 10 月 12 日、生田キャンパス、参加者 15 名

(講演タイトル) Coal Communities in Transition: An Overview and Example of U.S. Rural Sociology

本プログラムは、2020 年度秋学期に開催される予定であったが、世界的な感染症により延期され、2023 年 10 月に持ち越されることになった。

ピアース・グリーンバーグ氏は、アメリカのクレムゾン大学で主に環境社会学を担当する気鋭の研究者である。グリーンバーグ教授は、環境社会学や農村社会学の領域を中心に活躍しており、米国の *Environmental Sociology*, *Rural Sociology* や *American Sociological Review* など著名な学会誌で顕著な実績を上げており、本プログラムの申請者である片野とも共著で論文を発表している。

10 月 12 日の講演では、アメリカにおける環境社会学、農村社会学の最新動向とともに、グリーンバーグ氏が現在最も関心のある研究を紹介していただいた。グリーンバーグ氏の現在の関心は、アパラチア山脈の鉱山労働者にある。周知のとおり、鉱山労働、特にグリーンバーグ氏が着目する石炭労働は下火の産業であるばかりか健康被害なども多く、労働者も減少傾向にある。このような状況下にある炭鉱労働者の意識と行動は複雑である。こうした複雑な背景を持つ労働者の意識と行動に関する洞察は、学術的にも非常に興味深いテーマであるといえよう。

一方では、炭鉱労働者は経済的利益を求めするためにはより多くの環境規制等の廃止を求めたいところではある。しかし、他方で、炭鉱労働者は健康被害は避けたいという思いもある。また、一方で炭鉱労働者は資源から経済的利益を求め大企業の考えには反対しているが、他方で労働者は石炭労働に誇りを持っている。さらに、炭鉱労働に従事する仲間や同じ町に住む人々はコミュニティレベルとしての考え方は共通であっても、一個人レベルでは考え方が違う場合もあり、地域社会における様々な考えや思いは錯綜している。

従来、「農村社会は、どれも同じである。」「農村は都市とは正反対である。」「農村コミュニティは変わらない」と思われてきた。しかし、グリーンバーグ氏のご報告では、農村社会の多様な側面を、量的そして質的なデータから、描くことに成功している、といえるであろう。当日の講演では、こうした複雑な側面をもつアパラチア地方の労働者の状況を豊富なデータを様々な角度から分析した結果を報告していただいた。

当日の講演は教員、大学院生、および大学生 15 名が参加し、活発な質疑応答がおこなわれた。大学院生、大学生からの質疑も多く、学問的な面でも意義があったと思われる。また、

日頃英語を使うことのない大学生大学院生は本講義で大いに刺激を受けたようで、教育上のメリットも大いにあったと思われる。

本プログラムの助成により滞在期間中、グリーンバーグ氏とは新たな共同研究の可能性などを議論することが可能となった。

最後に、本助成の機会をいただいた明治大学には感謝を申し上げる。また、本助成のご担当部署である国際連携部国際連携事務室の皆様には感謝申し上げたい。とりわけ同室の根岸様、羽田様には大変お世話になった。この場を借りて改めて感謝を申し上げたい。

2023年10月
農学部専任准教授
片野洋平